

日本プロセス化学会第44理事会議事録

日時 2022年12月1日(木) 16:00-18:00
場所 みやこめっせ(京都府京都市左京区岡崎成勝寺町9-1)
出席 23名

議題

1 確認・報告事項

(1) 第43回理事会議事録(2022年6月29日開催)を確認した

(2) 役員移動(新任理事の紹介)が報告・承認された

- 富士フィルム富山化学(株)清都太郎様より協和ファーマケミカル(株)竹内 祐希(たけうち ゆうき)様(技術部 部長)に交代
- 味の素(株)浜田貴之様(東海事業所製造部)より味の素(株)高柳 大(たかやなぎ まさる)様(バイオ・ファイン研究所マテリアル&テクノロジーソリューション研究所長 理事)に交代

(3) 2022 サマーシンポジウム 2022年6月30日(木)、7月1日(金) 於: 富山県民会館の報告があった
中島範行(富山県立大学)理事と清都太郎(富士フィルム富山化学)理事のリーダーシップのもと、初の富山現地開催のサマーシンポジウム。「新型コロナウイルス感染防止ガイドラインに基づいた参加時のお願い」を徹底して現地開催が実現した。(参加者数: 550人、招待講演: 8演題、一般発表: 70演題)。

情報交換会場は「ホテルグランテラス富山」。コロナの影響により密を防ぐ目的で、情報交換会の参加人数を約200人に制限(参加者数: 208人)。

(4) 2022年ウィンターシンポジウム 12月2日(金) 於: みやこめっせについて報告があった

青山恭規(塩野義)理事と高須清誠(京都大学)先生のリーダーシップのもと、2022年12月2日(金)「みやこめっせ」での開催を目指して準備を進めている。情報交換会の会場は「ウェスティン都ホテル」。

京都テルサが改装休館のため、講演会場を「みやこめっせ」、情報交換会場を「ウェスティン都ホテル」で開催。コロナ対策として、情報交換会はテーブル着座形式・マスクを付けて会話するスペースを設けた。会場費・情報交換会費が高騰するため、情報交換会費は6,000円とした。

(5) 第15回プロセス化学ラウンジ中止が報告・承認された

Covid 19の感染状況に鑑み、2022年12月の開催を見送ることとした[将来計画委員会で検討]。

(6) 2023 サマーシンポジウム 2023年8月3日(木)~4日(金) 於: タワーホール船堀 準備状況 について報告があった

村瀬徳晃(大正製薬)理事と砂塚敏明(北里大学)先生のリーダーシップのもと準備を進めている。

1. 会期: 2023年8月3日(木)~4日(金)

- 準備日に8月2日(水)

2. 会場: タワーホール船堀(東京都江戸川区)

- 情報交換会も同じ会場

3. 招待講演 学5名、産5名^{*1}

4. 特別企画「失敗から得るもの」

- 4人の先生に順番にご登壇いただき、プロセス化学における失敗事例をご披露いただいたうえで、そうした失敗や研究上の挫折をどのように乗り越えられたのか、その失敗から得たものは何か、といったお話をしていただく。
- 講演4名^{*2} (お一人20分)

5. 予定

- ・ 事務局（化学工業日報社さま）との打ち合わせ：～1月末
- ・ 招待講演者と演題の確定：～2月末
- ・ シンポジウム web サイト、3月の関連学会への案内などへの製作・準備：3月～

※1（招待講演）：

【学】大井貴史先生（名古屋大）、大宮寛久先生（京都大）、鈴木啓介先生（東京工業大）、千葉一裕先生（東京農工大）、中村正治先生（京都大）

【産】阿部康則様（大鵬薬品工業㈱）、臼谷弘次様（住友ファーマ㈱）、渡邊洋介様（中外製薬㈱）、第一三共㈱（おそらく中村嘉孝様）、Pharmira㈱様（シオノギファーマ㈱との連名の可能性あり）

※2（特別企画講演）：大東篤様（アステラス製薬㈱）、栢野明生様（エーザイ㈱）、間瀬暢之先生（静岡大学）、日産化学㈱様

(7) **2022年ウィンターシンポジウム 12月8日(金) 於：タワーホール船堀 準備について報告があった**
中村嘉孝（第一三共）理事と田中健（東工大）先生のリーダーシップのもと、2023年12月8日（金）「タワーホール船堀」で開催予定。

(8) **地区フォーラムについて報告があった**

東四国地区フォーラム開催実績

2022年度第1回（第32回）日本プロセス化学会 東四国地区フォーラムセミナー

日時：2022年11月26日（土）15時～17時10分 会場：徳島大学長井記念ホール（蔵本キャンパス）

（1）「化学プロセスにおける安全」石川 文博 先生（幹事：(株) 伏見製薬所）

（2）「機動的企業経営による創薬戦略：バイオ新薬・バイオシミラーから細胞治療まで」
谷 匡治 先生（キッズウェル・バイオ (株)）

開催方法： 会場参加（100名）、web参加（先着300名）のハイブリッド形式

会場参加52名、Web参加8名。

2023年度は徳島大学で11月に開催予定。

東海地区フォーラム、北陸地区フォーラムはコロナの影響により2022年度は開催予定なし。

(9) **日本プロセス化学会発足25周年（2026年）記念誌について報告があった**

(株)成山堂書店さんから、出版時期について打診を受けており、今後、日本プロセス化学会としてどのように考え、進めていくべきかを含めて出版委員会に付託する。

(10) **その他について報告があった**

出前講義 5件

会員入会状況

現在の会員数

賛助会員 118社

正会員 399名

学生会員 103名

2022年度新規入会

賛助会員 5社

正会員 40名

学生会員 8名

2 協議事項

(1) アカデミア選出理事の年齢問題について協議・承認された

日本プロセス化学学会のアカデミアの理事、秋山先生、赤井先生、尾野村先生、中島先生、三好先生（東四国）と現会長の年齢が1～3歳差のため、秋山先生（学習院大学定年70歳）を除く4名がほぼ同時に（2年後から）定年を迎える。日本プロセス化学学会の機能や趣旨を考慮すると、アカデミア枠の増員・調整は必要不可欠。

40代後半から50歳代のアカデミアの先生方に理事としての経験を積んで戴き、将来の副会長、会長として活躍願うような構成に変革していかないと、組織の引き継ぎのみならず機能不全となる。

「会則一部改正」 理事枠35名以内に増員。名誉会長、（名誉）顧問、監事は理事枠にカウントしない。

1. 理事35名以内（うち、会長1名、副会長若干名）、監事2名は理事会で指名する。
6. 名誉会長と名誉顧問（終身）は理事会で選考し、総会で承認する。

日本プロセス化学学会会則第8条第一項の改正により、理事は35名以内に変更されるので、理事と監事で37名が定員となる。

現行の日本プロセス化学学会会則

第8条：役員

本会に次の役員を置く。

1. 理事30名以内（うち、会長1名、副会長若干名、会計1名、名誉会長若干名）、監事2名。
2. 役員任期は2年とし、再任を妨げない。
3. 役員が任期途中で退任した場合、理事会の決議により補充者を選任できる。
4. この場合の補充者の任期は前任者の残任期間とする。
5. 本会に、顧問若干名をおくことができる。その任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

- 日本プロセス化学学会組織図の中で、これまで理事枠を構成していた名誉会長と、3月31日に任を外れる佐治木（会長）を含めた会長経験者は理事枠から外れて、その枠を使って、秋山 新会長と新副会長を中心に、アカデミアの理事を年齢バランスを考慮して任じていただく。
- 名誉会長、（名誉）顧問は、必要に応じて執行部会の依頼を受けて、オブザーバーとして理事会・執行部会等に出席する。

2023年度（2023年4月1日より）の人事が承認された

- 塩入孝之 名誉会長 理事職の兼務を解除（2023年4月1日より）
- 富岡清 名誉会長 理事職の兼務を解除（2023年4月1日より）
- 佐治木弘尚 会長 会長退任、名誉会長に就任（2023年4月1日より）
- 橋本光紀 監事 監事退任、顧問に就任（2023年4月1日より）
- 田中規生 副会長 副会長退任、顧問に就任（2023年4月1日より）
- 日産化学（株）新理事 上坂浩之（こうさか ひろゆき）様（物質科学研究所 合成研究部 部長）（2023年4月1日より）
- 大島正裕 副会長 副会長退任、顧問に就任（2023年4月1日より）
- 田辺三菱製薬（株）新理事 有友啓一（ありとも けいいち）様（CMC本部 戦略技術研究所 所

長) (2023年4月1日より)

- エーザイ (株) 栢野明生 (かやの あきお) 様 (PPD ファンクション PST ユニット デピュティユニット長 (兼) 原薬研究部長) (2023年4月1日より)
- 大嶋孝志 (おおしま たかし) (九州大学薬学院主幹教授) 理事に就任 (2023年4月1日より)
- 高須清誠 (たかす きよせい) (京都大学大学院薬学研究科教授) 理事に就任 (2023年4月1日より)
- 間瀬暢之 (ませ のぶゆき) (静岡大学大学院工学研究科教授) 理事に就任 (2023年4月1日より)

上記の人事が承認された

(2) 企業選出理事の選考と任期について協議・承認された

- 賛助会員は120社を数えるが、2年の任期あるいは2年2期4年を経過した企業選出理事は交代するなどの方策により、一部の企業に偏らないようにしていくことも、本会を公平に運営していく上では重要である。
- 原則として理事の任期は2年という意識を持って戴くと共に、任期中にできる限りシンポジウムの世話人をお務め戴くなどの観点で、2年2期4年、2年3期6年等を参考に、**企業選出の理事会メンバーで、「理事選考方法検討の特別委員会」を立ち上げて、日本プロセス化学会企業選出理事の選考のあり方 (回す仕組み) とシステム (賛助会員各社で連絡会議を組織するなどの案が考えられる)**を確立して戴く。
- 座長は新副会長に就任する大正製薬村瀬先生に御願います。

(3) 会費等の値上げについて協議・承認された

学生会員年会費

学生会員は、学生の間にも一度1,000円支払えば、学生での身分が保障される。学会参加も無料で、情報交換会費も1,000円のため、学生会員は110名を数えるまでになった。2023年度以降の増額 (年**2,000円**) を提案する。

賛助会員年会費

賛助会員年会費を50,000円から**60,000円**に増額する。

正・賛助会員の情報交換会費

現行3,000円であり、実際の費用に即した適正価格**6,000円**に改定する。

<現在の個人年会費と情報交換会費>

年会費

賛助会員 50,000円, 正会員 5,000円, 学生 1,000円 (学生の間にも一度だけ)

シンポジウム参加費・情報交換会費

事前登録: 正・賛助・学生会員 無料, 非会員 8,000円, 学生非会員 1,000円

当日登録: 正・賛助会員 5,000円, 非会員 10,000円, 学生 1,000円

情報交換会 (事前) 正・賛助会員 3,000円, 非会員 6,000円, 学生 1,000円

情報交換会 (当日) 正・賛助会員 5,000円, 非会員 10,000円, 学生 1,000円

<変更後>

年会費

賛助会員 **60,000円**, 正会員 **5,000円**, 学生 **2,000円** (毎年納入)

シンポジウム参加費・情報交換会費

事前登録： 正・賛助・学生会員 無料, 非会員 8,000 円, 学生非会員 1,000 円

当日登録： 正・賛助会員 5,000 円, 非会員 10,000 円, 学生 1,000 円

情報交換会（事前）： 正・賛助会員 6,000 円, 非会員 8,000 円, 学生 3,000 円, 学生非会員 4,000 円

情報交換会（当日）： 正・賛助会員 8,000 円, 非会員 10,000 円, 学生 3,000 円, 学生非会員 4,000 円

サマーシンポジウムの企業展示ブース出展費用

企業展示ブースは盛況で、2022 年富山のサマーシンポジウムでも、既にスペースがなくなり、だいぶお断りした。今後、タワーホール船堀等でサマーシンポジウムを開催する際には、入りきらない位の応募が予想される（既にかなり無理をして 2 会場に分けて展示している）。

収益とスペースという観点で、来年（2023 年）のサマーシンポジウムからブースの費用を値上げしたい。化学工業日報にブースの費用・経費（今後の経費値上げ分を考慮して）を問い合わせる算出し、さらに賛助会員と非会員の金額差が 5.5 万円になるように設定した。

展示ブースの価格

現行： 賛助会員 税抜 100,000 円（税込 110,000 円）

非会員 税抜 130,000 円（税込 143,000 円）

変更後 賛助会員 税抜 **140,000 円**（税込 **154,000 円**）

非会員 税抜 **190,000 円**（税込 **209,000 円**）

賛助会員との差額△55,000 円

(4) 学会事務局について協議された

日本プロセス化学会では、他学会のように正規の事務局職員の採用をしていない。従って、給与や退職金などの思案の必要がなく、その費用分も会員へのサービスとして還元している。

事務局の森重さんは残り 2 年半（原則的には佐治木会長の岐阜薬科大学定年まで。しかしっだい学の人事次第では、さらに続けていただける可能性は残っている）。

仕事の量は会員管理、会費徴収、オンライン学会開催時の会員資格確認、HP の更新が大きい。

2 年半の間にパートで御願いできる事務担当者を探す。可能なら森重さんに在宅で協力していただく。

学会としての収入を増額し（150 万円程度）事務費用に宛てる事ができるようにする（事務担当者の採用やホームページソフトの更新など）。

ホームページについて

(1) ソフトの老朽化で HP の更新が面倒になってきている。新たな HP の作成が必要。20 万円くらい投入して業者に依頼し、骨格を作成したら、以降は自前で修正していく。アクセスできる人を事務局と執行部（会長と副会長）複数名に増員する。

(5) 日本プロセス化学会若手教育ツールについて協議された

間瀬（暢）先生、大嶋先生、高須先生（次年度から新任となるアカデミアの理事）と将来計画委員会で「特別委員会」を設置して企画を提案していただく。

作成したコンテンツは、日本プロセス化学会のホームページ（サーバー）からアクセスするように設定する。

(6) 2023 年以降のシンポジウム開催予定について報告・協議された

2022 ウィンター（今回）

世話人：高須清誠（京都大学）、青山恭規（塩野義製薬）、

会期：12/2、会場：みやこめっせ&ウェスティン都ホテル

2023 サマー

世話人：村瀬徳晃（大正製薬）、砂塚敏明（北里大）

会期：8/3～4、会場：タワーホール船堀

2023 ウィンター

世話人：中村嘉孝（第一三共）、田中健（東工大）

会期：12/8、会場：タワーホール船堀

2024 サマー

世話人：稲越直人（株式会社 MICIN）、尾野村治（長崎大）

会期：7/4～5、会場：長崎ブリックホール&長崎新聞アストピアホール&ザグローバルビュー長崎

2024 ウィンター

世話人：水船秀哉（スペラファーマ）、間瀬暢之（静岡大）

会期：12/6、会場：アクトシティ浜松

2025 サマー

世話人：嶋田康宏（富士フイルム和光純薬）、庄司満（横浜薬科大学）

会期：未定、会場：タワーホール船堀

2025 ウィンター

世話人：川崎昭彦（ナードケミカルズ）、アカデミア：未定

会期：未定、会場：京都テルサ

2026 ISPC

国際ナショナル・シンポジウム（別途検討）

2026 ウィンター以降

世話人、会期、会場 未定

2026年度以降は、次期シンポジウム担当副会長のエーザイ 田上克也先生にお願いする。